

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100052		
法人名	株式会社 総合福祉ひまわり		
事業所名	グループホーム市之倉ひまわり 1F		
所在地	多治見市市之倉町13丁目83番地の353		
自己評価作成日	平成28年2月1日	評価結果市町村受理日	平成28年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2191100052-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣のひまわり幼稚園と、さまざまなイベントで園児と交流を図り生き生きとした生活をしていただけるよう心掛けている。地域との関わりの方も設け地域の方々とも良い関係にある。(夏祭り、餅つき大会への参加)また家庭的な雰囲気作りも大切に個別レクにも柔軟に対応、ご本人様の要望に耳を傾け極力、要望に沿えるよう努めている。毎月、行われるレク、毎年、季節毎のイベントも継続し利用者様も楽しみにされており好評である。最期まで、その人らしい生活が送れるよう、御家族様、地域の皆様、職員が一丸となって支援していけるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの隣には幼稚園があり、常に園児との交流がある。老人介護と一体のステーションである。園児の明るい声が伝わり、また、イベントでは、利用者との世代間交流を深め、元気をもらいながら、生き生きと生活をしている。地域住民からは、介護相談を受けたり、ホームの日曜喫茶に気楽に立ち寄ってもらい、ふれあいと憩いの場になっている。地元の行事には、利用者と共に出かけ、住み慣れた地域と関わりながら、楽しく過ごすことができるように取り組んでいる。職員は、利用者の思いを共有し、資格取得者も毎年増え、質的向上を図りながら、居心地のよい生活環境を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(1F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有できるように努力している。職員会議で確認し職員は日常の支援の中でお互いが理念にかかっているかどうか指摘もしている。	理念は「利用者の尊厳を守り、笑顔あふれる介護」とし、目立つ位置に掲示をしている。職員は、日々実践の経過を振り返りながら、方針を共有し、利用者の尊厳を守り、笑顔で暮らせるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に夏祭り、餅つき大会に職員利用者様参加、月に一度の日曜喫茶を開催し地域との交流を継続している。町内会に入り地域の清掃活動に参加している。	町内会に加入し、回覧版で地域情報を把握している。地域の清掃活動や恒例行事に参加し、所内で開催する日曜喫茶に、近隣住民が訪れている。ホームの見学や福祉体験、介護相談などを受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	第三日曜日に日曜喫茶を開催している。20回の記念の日曜喫茶も開いている。その中で認知症の理解も話しながら楽しく開催。参加すると皆さんに出会う事も出来て又元気をもらって1ヶ月頑張れると言われている地域の人も多い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や人員状況、事故報告などを報告し、要望等を聞いている。頂いたご意見をサービス向上に生かす努力をしている。地域での問題について議題にあがる事もあり問題解決につながることもある。民生委員の方たちの協力が強く意見交換が活発にできている。	会議は、隔月に開催をしている。現況を報告し、運営の課題や取り組みで、意見を交わしている。地域高齢者の現状や家族介護の実情なども話し合い、事業所の機能を活かし、地域福祉の貢献につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、常に困った時は積極的に相談して協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者が、出席する運営推進会議で、事業所の実情を伝えている。困難事例や介護保険制度、成年後見などを相談し、助言を受けるなど、協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間職員が一人になる時以外は、施錠は基本的にはしていない。マニュアルも作成してあり理解を深める努力をしている。	身体拘束ゼロのマニュアルを整え、職員間で周知をし、拘束をしないケアを実践している。個々の状態を見極め、心理的にも拘束しないように配慮をしている。庭は広く、利用者の行動を見守り、施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、職員同士で話し合い、意識して利用者として接している。注意深く観察し「内出血事故報告書」に記入し原因を職員で考えたりして事故、虐待に対する意識を高めている。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加し活用に備えている。現在日常生活自立支援事業を活用しこれから後見人を付けなくてはいけない利用者様がみえて社会福祉協議会、市の高齢福祉課とも連携し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明し起こりうるリスク、重度化についての対応などについて詳しく説明している。不安なことがないか具体的にこちらから尋ね納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族の意見は運営推進会議でお話頂いたり、皆様の声、苦情箱を設置しています。又、面会に来られた時最近の様子をお話しご家族の意見、思いを聞き運営に生かす様にしている。	家族の訪問時や運営推進会議で、意見を確認している。家族には、ひまわり通信で、本人の健康状態や生活ぶりを伝え、意見や要望を受けている。それらを、職員間で話し合い、改善につなげている。	ひまわり通信を活用し、家族が記入できる意見欄を設けるなどの工夫で、さらなる意見や要望を吸い上げる取組に期待をしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を聞く様にしている。その内容を施設会議、又直接社長、施設長に職員の意見等を伝えて反映出来るようにしている。	管理者は、職員と一体感を持ち、要望や提案が出やすい関係を築いている。代表者との懇談会も定期的に設けている。職員の定着率についての課題を検討中である。	職員の定着率については、経営者と職員が一体となり、十分話し合い、定着につながる取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が現場の中で個々の勤務状況を把握して代表者等に伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の情報を提供したり、研修にも積極的に参加している。介護福祉士や介護支援専門員の資格取得に積極的に昨年に続き今年も介護福祉士3名、介護支援専門員1名受験し介護支援専門員は1名合格し研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多治見市が開催するサービス事業者の交流会に参加し他の事業者との交流を続けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご自分から言える人が少ない為、ご家族から聞き取るようにしている。普段の関わりの中からくみ取る様にしている。。又、入居時、契約時に要望等を聞く様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の懇談で、家族の思いを聞き、面会時や電話などで常に連絡しあい良い関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の懇談で、支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に食器を洗ったり、自分で出来る事はして頂き、お互い協力しながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の参加をお願いしたり、外出や外食をして頂くこともある。常にご家族と連携を取り、ご家族の立場を理解し良い関係を築いている。月1回ひまわり便りを郵送して情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が訪ねて来られる事がある。こちらから出向く事はあまりない。ご家族に外出をお願いすることもある。美容院、以前から行っているお店等個別レクにて対応している。	隣接のデイサービスを行き来し、利用者同士で交流をしている。所内の喫茶には、馴染みの人が訪れている。個別には、買い物や美容院、喫茶店など、行きつけの店へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを企画したり、利用者同士が会話できる機会を作る様にしている。会話が困難な利用者様に対してはスタッフが会話をつなげ関わりが持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後関わりが少ない。本人の様子を見に行く事がある。看取りを実施しているのでひまわりで亡くられる方が増えてきている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望が聞けない方は職員の毎日の関わりの中から声かけし把握に努め、本人本位のケアが出来るように努めている。	契約前のアセスメントで、本人情報を把握している。入居後は、個別ケアや会話などから思いを把握し、職員間で共有している。利用者の興味や関心のあることに寄り添い、その人らしい暮らし方に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の思いを聞き、職員会議で意見を交換し介護計画を作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の身体状況や生活のリズムを理解し本人の行動、言動、表情から現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の思いを聞き。本人の想いを今までの生活、生い立ちから聞きだし、担当の職員を中心に会議で意見を交換し介護計画を見直し現状に合った計画を作成している。	介護計画は、本人・家族の意向を取り入れ、担当職員を中心に、関係者の意見を集約している。さらに、ケア会議で検討を加え、利用者の自立を支え、健康を維持し、その人らしく暮らせるように作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づき等は介護記録に記録している。又申し送りノートに細かく記入し、朝礼などで繰り返し話し合い、意見交換し実践や介護計画の見直しにかつようしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ、通院など必要に応じて支援している。又外出支援は個別で、希望により昼食の外食も個別で支援し利用者は楽しみにしている。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民間の訪問理美容の提供、行きつけの美容院への付き添いや、マジック、ダンス、演劇、大正琴の演奏、ピアノ演奏などボランティアの協力で楽しい時間を過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望される病院へ受診している。基本的には家族対応の受診となっているが都合の悪い時は職員が付き添い受診している。受診の度に看護師が「受診確認表」を作成し、かかりつけ医に情報を提供できるようにしている。又主治医との連携が適切に取れ良好な信頼関係が築かれている。	契約時に、かかりつけ医の継続を確認し、希望者は、協力医に変更している。受診は、家族が対応し、職員が付き添う際は、医療情報を提供している。緊急時は、主治医と連携し、適切に対処している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と常に連携して対応している。急変時も24時間体制で対応している。又訪問看護師との連携も出来て適切な受診、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は情報を提供し、時々様子を見に行き、状態を把握し、家族とも連携し退院後に安心して暮らせるようにしている。又、病院の相談員とも情報交換している。主治医に聞きたい事があるときは直接聞くこともできる。退院時には主治医、ご家族、看護師、ケアマネ、グループホームの看護師のカンファレンスを開催し安心して生活できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については入居時に説明してありますが、終末期のケアについてはご家族の思いに添える24時間体制の医療連携を整えつつあります。	重度化や終末期の方針は、契約時に、本人・家族に説明をしている。早い段階から、家族と関係者で、対応方針を話し合っている。終末期は、家族の希望を受け入れ、協力のもとで、看取りを行っている。	入居時に、利用者、家族に説明する際、口頭ではなく、書面で提示することが望ましく、重度化指針等の作成に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の行うAED操作、人工呼吸蘇生訓練を実施している。今後も定期的に訓練、研修を行う予定です。事務所にマニュアルが提示してあり職員がいつでも目が通せるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に消防署の協力で訓練を行っている。昨年より、町内会に入会し地域の活動に参加する機会も増えてきているので、以前のように地域の人と一緒に訓練し協力体制を築くように心がける。	消防署協力の下で、火災訓練を実施し、地震や夜間も想定している。避難や初期消火、通報などを行い、備蓄も整えている。地域との協力体制を築き、地域の防災訓練に参加をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを損なわない対応を心掛けている。職員会議の折に職員の意識向上を図っている。人格を汚す対応をした職員には、現場で管理者、リーダーが注意をするようにしている。	高齢者を人生の先輩として尊敬し、プライバシーや自尊心を傷つけない言葉かけに徹している。風呂場やトイレ介助では、羞恥心とプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に選択できるような対応を心掛けているが、まだ充分ではなく職員の研修、教育が必要である。言葉で意思を表せない利用者様には表情やふとした行動から、くみ取って対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れが作ってありそれに沿って対応しているが、自分のペースで過ごされる方もいる。見たいテレビの番組がある利用者様は丁度入浴、おやつとの時間と重なる為、入浴を午前中に入られたり、おやつをたの利用者様とは違う時間にする事がある。又利用者様の年齢、体調に合わせた支援を提供している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択は利用者を選んでもらっているが、本人が選べる人は少ない。また2カ月に一度理美容を利用できるように連携を取っている。訪問の理美容と行きつけの美容院へ付き添う支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、食事の後片付けを手伝っていただけ利用者様には極力一緒に参加していただく。基本は食材を発注しメニューがきまっているが時々利用者様の好物を聞き一緒にメニューを決めることもある。誕生日にその利用者様の好きな食事を聞き提供することもある。	利用者は、食事の準備や後片付けを手伝っている。材料は、業者発注だが、利用者の嗜好を取り入れている。旬の食材をリクエストし、満足感のある食事を提供している。おやつや行事食は、一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の食事、水分摂取量を把握している。利用者の状態に合わせて食べやすい食事形態で提供している。水分をあまり摂られない利用者様には、一日通して確保できるように少しずつ根気よく対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの手伝いを行っている。入歯の方は、自分で洗われた後、職員が見て清潔保持している。夜間はポリドントにつけ消毒している。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し一人ひとりの排泄習慣、リズムをつかみ、オムツ使用を減らし、排泄の自立に向けた支援をしているが利用者様の重症化に伴いオムツ使用の利用者様が減ることが少ない。	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が習慣になるよう取り組んでいる。夜間は、安全面に配慮し、利用者の状態に合わせたオムツを使用し、昼間は、紙オムツにパッドで対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操をしたり、散歩に出かけたり、水分補給を充分するよう取り組んでいます。下剤を使用している方には個々に応じた使用量、頻度で使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	常に希望に合わせて入浴出来ていないが、できるだけ希望にそえるように努めて行く。	入浴は、本人の希望に沿うように努め、汚れ具合やその日の気分に応じて、足浴やシャワーなどで対応している。重度者用に機械浴を備え、複数の介助者と見守りで、ゆったりと楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体の状態に合わせて、休息していただいている。本人が個々の体調に合わせて休息されている方もいる。職員からその日の利用者様の様態をみて就寝してもらうようにもつとめている。ヨーグルトを極力食べるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は記録と一緒に職員が確認できるようになっている。看護師とも連携し支援している。服薬管理表を作成し誤薬事故が起きないように努めている。配薬した薬は、看護師、遅出者、夜勤者で3回確認し配薬用紙でチェックし、服薬時は必ず日付、氏名を声に出して読み上げ間違いがないか確認して服薬してもらい誤薬のないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物や手芸、折り紙など自らの好みの物を購入し楽しんで暮らされている。職員は利用者のおおよその生活歴を把握し共有、継続して行けるように支援している。食に対して嗜好品を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じて散歩に出かけたり、買い物に出かけたりしている。また家族の協力も得て外出の機会を設けていただいている。家族の協力の有無で支援に差がでている。又個別の支援で2、3人で出掛け喫茶店に出掛けたり、外食支援もしている。	日常の散歩と外気浴、庭の東屋など、戸外に出ている。買い物や喫茶店、外食など、家族と協力して出かけている。年間では、季節の花見や紅葉狩りなどの名勝地へ外出をしている。	

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	3名の方が自己にて所持し、買い物等で使えるように支援している。1名は社会福祉協議会の自立支援でお金の管理をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話や手紙を出せるように支援している。年賀状は個人でご家族に出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、居間兼食堂は1フロアからなり居間にソファが置いてある。畳コーナーもある。壁には利用者様の作品がはってあり季節感のあるフロアになっている。利用者様と職員共同の作品も貼ってある。	共用の間は、天井が高く開放的である。窓越しに外の季節を感じることができ、園児の笑い声が聞こえてくる。居間には、寛げるソファと、壁には、季節感のある手づくり作品を掲示し、居心地のよい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を配置して、外を眺めながら会話出来るスペースを作り、居間にソファを置きゆっくり出来るスペースがある。隣の幼稚園の園児の遊んでいる姿を見る事が出来る利用者の楽しみの空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具が置いてあり自宅に居るような感覚になれるように配慮している。お仏壇を置いている利用者様もあり安心して暮らせるようにしている。夜間暗くないと眠ることが出来ない方のドアには外からの光が漏れないように工夫してある。又、部屋がわかりにくい方には大きな字に替えたりして部屋が自分でわかるように工夫している。	居室には、介護用のベッドにクローゼットを備えている。馴染みの家具や日用品を自由に持ち込み、好みに配置をしている。居室の表示は、太字でわかりやすいように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせた環境整備に努めている。危険が生じた場合は、本人の不安材料を取り除けるように職員や利用者様と話し合っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100052		
法人名	株式会社 総合福祉ひまわり		
事業所名	グループホーム市之倉ひまわり 2F		
所在地	多治見市市之倉町13丁目83番地の353		
自己評価作成日	平成28年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有できるように努力している。職員会議で確認し職員は日常の支援の中でお互いが理念にかなっているかどうか指摘もしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に夏祭り、餅つき大会に職員利用者様参加、月に一度の日曜喫茶を開催し地域との交流を継続している。町内会に入り地域の清掃活動に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	第三日曜日に日曜喫茶を開催している。20回の記念の日曜喫茶も開いている。その中で認知症の理解も話しながら楽しく開催。参加すると皆さんに出会う事も出来て又元気をもらって1ヶ月頑張れると言われている地域の人も多い。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や人員状況、事故報告などを報告し、要望等を聞いている。頂いたご意見をサービス向上に生かす努力をしている。地域での問題について議題にあがる事もあり問題解決につながることもある。民生委員の方たちの協力が強く意見交換が活発にできている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、常に困った時は積極的に相談して協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間職員が一人になる時以外は、施錠は基本的にはしていない。マニュアルも作成してあり理解を深める努力をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、職員同士で話し合い、意識して利用者とは接している。注意深く観察し「内出血事故報告書」に記入し原因を職員で考えたりして事故、虐待に対する意識を高めている。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加し活用に備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明し起こりうるリスク、重度化についての対応などについて詳しく説明している。不安なことがないか具体的にこちらから尋ね納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族の意見は運営推進会議でお話頂いたり、皆様の声、苦情箱を設置しています。又、面会に来られた時最近の様子をお話しご家族の意見、思いを聞き運営に生かす様にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を聞く様にしている。その内容を施設会議、又直接社長、施設長に職員の意見等を伝えて反映出来るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が現場の中で個々の勤務状況を把握して代表者等に伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の情報を提供したり、研修にも積極的に参加している。介護福祉士や介護支援専門員の資格取得に積極的で昨年に続き今年も介護福祉士3名、介護支援専門員1名受験し介護支援専門員は1名合格し研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多治見市が開催するサービス事業者の交流会に参加し他の事業者との交流を続けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご自分から言える人が少ない為、ご家族から聞き取るようにしている。普段の関わりの中からくみ取る様にしている。。又、入居時、契約時に要望等を聞く様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の懇談で、家族の思いを聞き、面会時や電話などで常に連絡しあい良い関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の懇談で、支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に食器を洗ったり、自分で出来る事はして頂き、お互い協力しながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の参加をお願いしたり、外出や外食をして頂くこともある。常にご家族と連携を取り、ご家族の立場を理解し良い関係を築いている。月1回ひまわり便りを郵送して情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が訪ねて来られる事がある。こちらから出向く事はあまりない。ご家族に外出をお願いすることもある。美容院、以前から行っているお店等個別レクにて対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを企画したり、利用者同士が会話できる機会を作る様にしている。会話が困難な利用者様に対してはスタッフが会話をつなげ関わりが持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後関わりが少ない。本人の様子を見に行く事がある。看取りを実施しているのでひまわりで亡くなられる方が増えてきている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望が聞けない方は職員の毎日の関わりの中から声かけし把握に努め、本人本位のケアが出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の思いを聞き、職員会議で意見を交換し介護計画を作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の身体状況や生活のリズムを理解し本人の行動、言動、表情から現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の思いを聞き。本人の想いを今までの生活、生い立ちから聞きだし、担当の職員を中心に会議で意見を交換し介護計画を見直し現状に合った計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づき等は介護記録に記録している。又申し送りノートに細かく記入し、朝礼などで繰り返し話し合い、意見交換し実践や介護計画の見直しにかつようしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ、通院など必要に応じて支援している。又外出支援は個別で、希望により昼食の外食も個別で支援し利用者は楽しみにしている。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民間の訪問理美容の提供、行きつけの美容院への付き添いや、マジック、ダンス、演劇、大正琴の演奏、ピアノ演奏などボランティアの協力で楽しい時間を過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望される病院へ受診している。基本的には家族対応の受診となっているが都合の悪い時は職員が付き添い受診している。受診の度に看護師が「受診確認表」を作成し、かかりつけ医に情報を提供できるようにしている。又主治医との連携が適切に取れ良好な信頼関係が築かれている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と常に連携して対応している。急変時も24時間体制で対応している。又訪問看護師との連携も出来て適切な受診、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は情報を提供し、時々様子を見に行き、状態を把握し、家族とも連携し退院後に安心して暮らせるようにしている。又、病院の相談員とも情報交換している。主治医に聞きたい事があるときは直接聞くこともできる。退院時には主治医、ご家族、看護師、ケアマネ、グループホームの看護師のカンファレンスを開催し安心して生活できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については入居時に説明してありますが、終末期のケアについてはご家族の思いに添える24時間体制の医療連携を整えつつあります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の行うAED操作、人工呼吸蘇生訓練を実施している。今後も定期的に訓練、研修を行う予定です。事務所内にマニュアルが提示してあり職員がいつでも目が通せるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に消防署の協力で訓練を行っている。昨年より、町内会に入会し地域の活動に参加する機会も増えて来ているので、以前のように地域の人と一緒に訓練し協力体制を築くように心がける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを損なわない対応を心掛けている。職員会議の折に職員の意識向上を図っている。人格を汚す対応をした職員には、現場で管理者、リーダーが注意をするようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に選択できるような対応を心掛けているが、まだ充分ではなく職員の研修、教育が必要である。言葉で意思を表せない利用者様には表情やふとした行動から、くみ取って対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れが作ってありそれに沿って対応しているが、自分のペースで過ごされる方もいる。見たいテレビの番組がある利用者様は丁度入浴、おやつ時間と重なる為、入浴を午前中に入られたり、おやつをたの利用者様とは違う時間にすることがある。又利用者様の年齢、体調に合わせた支援を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択は利用者を選んでもらっているが、本人が選べる人は少ない。また2カ月に一度理美容を利用できるように連携を取っている。訪問の理美容と行きつけの美容院へ付き添う支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、食事の後片付けを手伝っていただけ利用者様には極力一緒に参加していただく。基本は食材を発注しメニューがきまっているが時々利用者様の好物を聞き一緒にメニューを決めることもある。誕生日にその利用者様の好きな食事を聞き提供することもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の食事、水分摂取量を把握している。利用者の状態に合わせて食べやすい食事形態で提供している。水分をあまり摂られない利用者様には、一日通して確保できるように少しづつ根気よく対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの手伝いを行っている。入歯の方は、自分で洗われた後、職員が見て清潔保持している。夜間はポリドントにつけ消毒している。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し一人ひとりの排泄習慣、リズムをつかみ、オムツ使用を減らし、排泄の自立に向けた支援をしているが利用者様の重症化に伴いオムツ使用の利用者様が減ることが少ない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操をしたり、散歩に出かけたり、水分補給を充分するように取り組んでいます。下剤を使用している方には個々に応じた使用量、頻度で使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	常に希望に合わせて入浴出来ていないが、できるだけ希望にそえるように努めて行く。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体の状態に合わせて、休息していただいている。本人が個々の体調に合わせて休息されている方もいる。職員からその日の利用者様の様態をみて就寝してもらうようにもつとめている。ヨーグルトを極力食べるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は記録と一緒に職員が確認できるようになっている。看護師とも連携し支援している。服薬管理表を作成し誤薬事故が起きないように努めている。配薬した薬は、看護師、遅出者、夜勤者で3回確認し配薬用紙でチェックし、服薬時は必ず日付、氏名を声に出して読み上げ間違いがないか確認して服薬してもらい誤薬のないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は利用者のおおよその生活歴を把握し共有、継続して行けるように支援している。食に対して嗜好品を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じて散歩に出かけたり、買い物に出かけたりしている。また家族の協力も得て外出の機会を設けていただいている。家族の協力の有無で支援に差がでている。又個別の支援で2、3人で出掛け喫茶店に出掛けたり、外食支援もしている。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	GH2階は現在はお金の所持者は無い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話や手紙を出せる支援をしている。年賀状は個人でご家族に出せるように支援している。離れて暮らすお孫さんと文通している方がいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、居間兼食堂は1フロアからなり居間にソファが置いてある。畳コーナーもある。壁には利用者様の作品がはってあり季節感のあるフロアになっている。利用者様と職員共同の作品も貼ってある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を配置して、外を眺めながら会話出来るスペースを作り、居間にソファを置きゆっくり出来るスペースがある。隣の幼稚園の園児の遊んでいる姿を見る事が出来る利用者の楽しみの空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具が置いてあり自宅に居るような感覚になれるように配慮している。夜間暗くないと眠ることが出来ない方のドアには外からの光が漏れないように工夫してある。又、部屋がわかりにくい方には大きな字に替えたりして部屋が自分でわかるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせた環境整備に努めている。危険が生じた場合は、本人の不安材料を取り除けるように職員や利用者様と話し合っている。		